

令和7年度岩倉南小

学校運営協議会ニュース NO. 3

「子どもの姿から学ぶ」

令和8年1月12日

岩倉南小学校学校運営協議会理事会

会 長 二股 茂

京都市立岩倉南小学校

校 長 石田 和三



10月8日（水）、第3回学校運営協議会理事会をふれあいサロンで行いました。「思いやり、たがいの良さを認め合う子」「自分で考え、行動する子」の育成に向けて、前期の教育活動を振り返りました。また、教職員の研修や働き方改革などについても学校による自己評価の報告と、運営協議会による学校関係者評価を行いました。

【学校による自己評価の報告】

教育活動を「遊び」「学習」「対話」「行事」の4つの場面で捉え、その重なりの中に「たてわり遊び」「たてわり遠足」「架け橋プログラム」「探究的な学習（総合的な学習の時間）」「自己選択・自己決定学習」「みんなの日（異学年対話）」等を位置付けていることを説明しました。また、各場面において、子ども自身が選択・決定していく機会や、子ども自身が学びの過程を振り返る機会を設けるなど、日々の取組の中で大切にしていることを、アンケートの結果や子どもたちの様子と関連付けながら報告しました。

また、これらの教育活動を支える教職員研修の在り方や、そのための時間を生み出すための工夫についても取り上げました。

【学校運営協議会理事会による学校関係者評価】

学校関係者評価の中での意見について、いくつか紹介します。

- ・ 学習では、ゲーム感覚的な面白さではなく本質的な楽しさを味わえるようにしたい。
- ・ 自主学習で「何をしたらいいかわからない」となることもある。枠組みの中で、選ぶ・決めるという体験を重ねつつ、枠組みを少しずつ広げていくといいかもしれない。
- ・ 時間の使い方も含めて、どのように過ごすかを自分で考えられるように、児童館でも子どもたちに力をつけていきたい。
- ・ 先生の働き方が負担になっていないか気になる。「すぐーる」が活用できるので、連絡帳の必要性もあらためて考えたい。先生から丁寧な返信をいただくが、ありがたいとともに恐縮してしまう。
- ・ アンケートの結果や分析を見ていると、学習を通して力がついたと実感している子が多い。自分の感じたことを伝える。それは、大人から子どもに、年長者から年少者にだけでなくても成り立っていて、子ども自身が自分の言葉で伝えることが、子どもにとっての充実感になっている。
- ・ 管理のための報告書作成に時間をとられているのではないか。学校が提出する報告書に対して、有効なフィードバックが得られているのだろうか。

知・徳・体のアンケート結果と自己評価の詳細については、「学校評価特集号」もご参照ください。